

研 究 主 題 に つ いて	I 研究主題 「主体的・協働的な国語科学習の展開」 1 この研究が目指すもの 「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点からの学習過程の改善」 2 この研究で求める育成すべき資質・能力の3つの柱 ①生きて働く知識・技能の習得 ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成 ③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養 II 国語教育研究会で考える育成する資質・能力 1 知性・感性・社会性の調和のとれた人間性を育む 2 課題解決の過程で言語能力と思考力・想像力・表現力・判断力を育てる 3 自ら課題を発見し、課題解決の方法を工夫し、課題解決ができる力を育てる III 国語教育科学研究会で考える「主体的・対話的で深い学び」とは 1 主体的な学びとしての国語科の課題学習 （1）主体的な学びとしての単元全体の学習 ①直観過程 → ②分析過程 → ③体制過程 （2）主体的な学びとして1時間の学習過程の工夫 ① 学習課題を設定する ア 課題状況を認識 イ 「なぜ」「どうして」と疑問をもつ ウ 疑問や問題意識を基に課題設定 ② 課題解決のための学習方法の工夫 ③ 課題・方法に沿って、一人一人が自己学習をする ④ 自己学習の結果を基にペアやグループで学習をする ⑤ 共同学習…どのように読み取っていればよいか話し合う。 ⑥ 評価基準が明らかになる。 ⑥ 自己評価をし、学習のやり直しをしたり、深化学習をしたりする。 ⑦ どの児童も学習目標に到達する ・学習に成功した喜び、成就感をもたせ、主体的に学ぶ意欲につなぐ。 ・学習に成功したことによって、学習方法をプールする。 （3）主体的な学習ができるような課題設定と学習方法の工夫 （4） 主体的な学びができるように個に応じた学習方法・学習シートの作成 2 課題解決と子供同士の協働的な学び（対話的な学び） （1）何のために対話的な学び合いをするのか（目的） （2）何について話し合うのかはっきりさせる（視点） （3）どんな方法・過程で話し合うのか（方法） （4）どんな形態をとるのか（形態） 3 評価と深い学び （1）診断的評価 （2）形成的評価と自己調節 （3）評価の結果に応じた深化学習
-------------------------------	---

IV 検証する…研究実践を行い、協議し検討する

1 実践授業 教材名「言葉と事実」（教出5年）江戸川区下鎌田西小学校 指導教諭 前田修郎
前田先生の提案は4点ある。①主体的・協働的な学習過程をどう考えるか。②要旨に対して考えをもつにはどうするか③評価基準をどう設定したか。④情報についてどう考えたか。
その中でも主体的・協働的な学習過程全体を確実に行ったところに実践のポイントがある。

都教委は、平成27年2月付で「新たな学びを支える教科等指導の工夫」の中に、協働的な学習活動を学習過程を次のように位置付けている。

課題を把握する → 自分の考えをもつ → 協働的な学習活動 → 自分の考えを再構築する
→ 自己の変容などを振り返る → 問題を解決する

*前田先生の授業は、上のような考えに沿って行われた。

2 授業のポイント

課題を把握する

・課題状況を理解させる。必要性など。・課題分析する。・学習方法を考えさせる。・学習方法は見えるように掲示する。・考え方や感想のもち方を考えさせる。

自分の考えをもつ

・課題に沿って自分の力で学習する。・読んだり書いたりカードを操作したり静かに集中して学習する。・個人差に応じた学習シートを用意して全員の学習を成立させる。
・個の学習が成立するように学習時間や場の保障をする。・机間指導で支援を十分にする。

協働的な学習をする

研究
授業
実践
I

①学習の仕方が合っていたか確かめ合う。（例、ペア）
②どのような考えか、どのような学習結果か、互いに発表し合う。（例、グループで）
③児童の例を取り上げて全体で検討する。（言葉の学習・本文にもどる・ICTで見える化。）
④どのようなことに気を付けて学習すればよかったのか、どんな言葉を手がかりにしてどのように考えればよかったのか、ポイントをつかむ。

⑤評価基準を理解する。

・どう読めばいいか、どのように書けばいいか、読み方と書き方が、評価基準になる。
・見本法や選択法や条件法で評価基準を立て、よく理解させる。

自分の考えを再構築する

・個にもどり、評価基準を基にして自己評価する。
・自分の学習状況を理解する。メタ認知
・どんなことに気を付けて学習すればよかったのか理解する。（調節条件）
・調節条件に従って、読んだり書いたり組み立てたりする。（フィードバックする。）

自己の変容を振り返る

・学習課題に戻る。
・学習方法も振り返る。
・振り返りを書く。
・本時の学習の仕方とその結果を振り返り、自己の変容を知る。

問題を解決する

・課題が達成されたことを確かめ、学び方を学ぶ。
・達成感を抱かせる。
・全文をゆっくり味わって読む。
・学習ノートを整理する。

研究
授業
実践
II

2 実践授業 教材名「どうぶつ園のじゅうい」(光村2年) 武蔵野市関前南小学校 教諭 山口 達郎
山口先生の実践のポイントは本時である。特に、自己学習で書いた自分の考えを、ICTで投影して、その是非をめぐって全体で話し合って評価基準を表すところにある。本時の目標は次のようである。

『どうぶつ園のじゅうい』を読み、獣医の仕事で興味をもったことについて次のことをおさえて自分の考えを書くことができる。

- ・獣医の仕事について感じたこと
- ・興味をもったこと(根拠となる叙述)
- ・知ってることや自分の経験(これからの生活にどう生かしたいか)

本時の展開は下のようになっている。

過程	○学習事項	学習活動	・留意事項 ◇評価
学習課題を理解する	○前時を振り返る。 ○本時の課題を作る。	1 学習課題を立てる。	・前時までに学習した獣医の1日の仕事を振り返られるようにする。

じゅういさんの1日のしごとの、どんなことにきょうみをもちましたか。

そこから、どんなことを考えましたか。

学習方法を確認する	○学習課題を分析し、学習方法を話し合う。	2 本時の学習方法を考える ①本文を読み返す②以下を押さえて書く。(1)仕事について感じたこと(2)興味をもったこと(叙述)(3)考えたこと ③書いたことを発表し合う。	・前時までの学習を振り返り、体制読みに適した学習方法を話し合わせる。 ・(3)は自分の経験、今後の生活にどう生かしたいかという視点をもたせる。
自己学習する	○学習方法に従い、課題について自己学習する。	3, 視点に沿って本文と学習シートを読み返す。 4, 興味をもったことについて、以下をおさえて書く。 (1)獣医の仕事について感じたこと(2)興味をもったこと(叙述)(3)考えたこと	・3種類の学習シートから自分に合ったものを選ぶ。 ・興味をもった理由を明らかにさせる。 ◇視点に沿って書けたか。 ◇自分の考えの根拠となる叙述を書き抜けたか。
共同学習をする	○まとめた事柄について話し合う。	5, ペアで交流する。 6, 全体で話し合う。	・視点に沿って書けているかをペアや全体で確認させる。
評価・調節する	○評価の基準を理解し、自己評価し、調節すること	6, 全体で話し合い、題に即して評価基準を設定する。 ○ICTで投影された友達のシートを読んで話し合う。 (1)獣医の仕事について感じたこと(2)興味をもったこと(3)考えたこと 8, 自己評価の結果に基づいて読み直し、調節する。	◇評価基準 3点とも書けている…A 3点書けているが不足がある…B
振り返り	○次の学習の見通しをもつ。	9 次時の課題を考える。	・関連する読書から想起させる。

3 自分の考えを書くときの視点、話し合いの視点、この視点を授業の柱にして、ぶれることなく授業を進めたことが成功の秘訣であった。また、ICTが効果的に生かせていた。

研究 授 業 実 践 Ⅲ	～～主体的・協働的な授業の実際～～ ○平成29年2月18日葛飾区渋江小2年「スーホの白い馬」(光村2年)杉本陽子先生の指導の概要である。 1 前時の振り返り T 昨日は、殿様のところから、白馬が…。 C 殿様から逃げて風のように走って逃げていった。 T でも？ C でも、目も落ちて、矢が刺さっていて…。 2 学習範囲の決定 T では、そこのところを勉強しましょう。 3 学習範囲を読む T 音読しましょう。 C 各自音読する。 4 課題を考える T どんなこと皆で考えようか。目当てどうしようか。 C 好きなスーホのところへ帰っていく白馬と、白馬に出会えたスーホ。 C スーホと白馬の気持ちを考えたい。 T では、それをまとめて書いていいですか。 5 課題設定 T スーホに会いに来た白馬とスーホの気持ち考えましょう。 6 学習方法の決定 T (ICTで学習シートを投影して説明しながら)スーホの様子が分かるのはどの言葉ですか。 C スーホははねおきて。C <u>かけて</u>いきました。 T そこからどんなことが分かりますか。 C スーホが帰ってきてうれしい。 T 白馬の様子はどの言葉で分かりますか。 C <u>矢が何本も突き刺さり</u>。 C <u>好きなスーホのところへ</u>…。 C <u>汗が滝のように</u>。 C <u>走って走って走り続けて</u>…。 T スーホが矢を抜く様子はどう書いてありますか。 C <u>歯を食いしばって</u>…C こんなふうにグーと。 T 今日の課題についてみんなよく考えていますね。では、スーホの気持ちになって書きましょう。 7 自己学習をする C (すぐにスーホの気持ちをシートに書き始める。) T (机間指導しながら)この言葉を読むとスーホの気持ち分かる、という言葉を見付けて書きましょう。(学習方法の確認) 8 共同学習	T それでは、皆で確かめましょう。話して下さい。 C1「白馬死なないでくれ。白馬がいないと悲しいんだよ。お願いだから死なないでくれ。ずっとお前に会いたかったんだよ。」 T 似ている人いますか。(C1が指名する) T どこが似ていますか。 C2「<u>死なないで</u>というところです。(自分の学習シートを読む)…ありがとう。…」 T <u>ありがとう</u>と書いた人はいますか。 C3「かわいそうに。君に会えてうれしいよ。今までありがとう。まだ<u>一緒にいたいよ</u>。」 T 一緒にいたいと書いた人はいますか。 C4「ぼくは、白馬がいないと生きていけないんだ。また草原を走ろうよ。ずっとずっと大好きだよ。」 T <u>大好きだ</u>って言ってあげたいよね。」 C5「白馬大好きだよ。早く治してあげたい。」 T 白馬にどうしてほしいの？ C <u>生きてほしい</u>。 T 手を挙げている人で終わりにしましょう。 C6「生きて。死なないで、また遊ぼうよ。…」 T いいね。音読に生かしたいね。 *アンダーラインをした言葉が板書してある。 9 自己評価 T 黒板を見て下さい。いろいろなスーホの気持ちが書きました。黒板にある手掛かりにした言葉を基に、このようなスーホの気持ちが書ければよいのです。それでは、自分の学習シートを読み直して、手掛かりにした言葉とスーホの言葉で書いたものを確かめて下さい。 C (自分の学習シートを読み返して確かめ、評価の欄に印をつける。) T できたと思う人は？ C (大勢が挙手する。) 10 調節学習 T 十分ではないと思う人は？もっと書けるという人は？ どちらの人も、本文をよく読んで自分が書いた手掛かりにする言葉から、想像して書きましょう。 C (読み直して、書き加えたり直したりする。) T (机間指導して想像の仕方を支援する) 11 まとめ T 皆さんの学習シートを読むと手掛かりにする言葉から沢山想像していますね。こういう勉強は楽しいですか。 C はい。でも、(白馬が)死んじゃう…。 T では、次の時間はその場面を学習しましょう。(終)
-----------------------	---	--

V 第9回国語教室として研究発表してご批正を乞うとともに、秋田大学教育文化学部教授 成田雅樹教授に総括と方向付けをいただく。（講演を聞いた会員の感想をもって報告とする。）

成田先生の講演を聞いて

私が国科研で学んで、一番悩んでいるのは「評価基準」です。新学習指導要領でも示され始めている「ルーブリック」は正にこれにあたります。児童が課題に対して、「何を」「どのように（どの程度）書くのか」を明確かつ具体的にしていくことで、児童自身で学習の成果を実感できるのです。

今回、成田先生はアメリカの全国統一テスト「NAEP」における作文の具体的な評価基準（ルーブリック）などについて講演してくださいました。その中で、学んだことを二点述べます。

一つ目に、語句を機能的に捉えるということがあります。

パフォーマンス評価、ルーブリック、スケールサンプル…たくさんの新しい言葉が出てきました。例えば、プロンプトは作文の目的や相手、条件などを示すことを表す語句です。作文の具体性を高めるために、手本となるものがスケールサンプル。段階的に評価を示すものがルーブリックとあります。

このように、それぞれの言葉の意味や役割を正確に理解し、機能的に捉えることで私たちの指導内容の具体化につながると考えました。

二つ目に、書かせる内容の精選ということがあります。

「NAEP」ではプロンプトの他にコントラクトと言って、学習に先立って児童（生徒）に目標と評価の約束を「契約」と示しています。「～までできたらA評価です。」と先に伝えるのです。そして、プロンプトに沿って、書いたものを評価し、六段階に分けています。

ここで興味深かったのはプロンプトやコントラクトを示したとしても、課題を正確に捉えることが難しい児童（生徒）がいるということです。

また、コントラクトを児童（生徒）の納得につなげていくと自己学習の後、次のような心理が働くと考えます。

書いたものをルーブリックに沿って評価する
↓
児童（生徒）が自己の学習状況を自覚する
↓
スケールサンプルに近付きたいので、プロンプトやコントラクトを再確認する
↓
手直しをする（再構築、調節）

この流れは、国科研の学習過程の評価・調節にあたると考えることができます。また、新学習指導要領で示されている、自己評価・再構築とも言えます。この過程の中で、課題を正確に捉えることが難しい児童にフォローすることができます。しかし、書かせる内容を精選しなければ、児童（生徒）示すコントラクトやプロンプトは曖昧なものになってしまいます。書かせたい内容を精選し、学習者の心理に寄り添って授業を展開していくことが大切だと考えます。

以上の様に、作文指導における児童（生徒）の動機付けや適切な評価が大切であると学びました。自分自身の作文指導を振り返ってみると児童が作文を書いておしまい、読み合うだけでおしまいということがありました。児童が学習の目的を明確にもち、「何を」「どのように（どの程度）書くのか」を理解して取り組むことで、より深い学びに繋がると考えました。今後は、より充実した学習評価を実践できるよう、さらに学んでいきます。

（武蔵野市立関前南小学校 教諭 山口 達郎）